

# 日系アメリカ文学雑誌集成

編集・解題・解説

篠田左多江・東京家政大学助教授  
山本 岩夫・立命館大学教授

●全22巻・別冊1

●収録雑誌名

『收穫』・『若人』・『怒濤』・『鉄柵』・『ハートマウンテン文藝』  
『ポストン文藝』・『NY文藝』・『南加文藝』

●別冊

解説「日系アメリカ文学について」・総目次・索引

●復刻版概要

A5判・B5判・上製・総11、420頁・全5回配本（97年6月↓98年9月）

●本体揃価格

3699,000円（全22巻・別冊1）

太平洋戦争中、アメリカ強制収容所内で発行された文学雑誌（日本語）をできるかぎり収集し、解題を付し復刻。戦後の日系文学雑誌も、あわせて復刻出版。



# 日系移民史研究の新資料の発掘

阪田 安雄・大阪学院大学国際学部教授

今回アメリカ日系文学研究のための『文学雑誌集成』全二二巻が、不二出版から復刻刊行される。日系人研究に携わる者にとっては、非常に喜ばしいことである。

私がこれらの資料に初めて巡り遭ったのは、三〇年前であった。私は一九六〇年代に、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)の日系人研究プロジェクト(JARP)の一員として、一世歴史の調査研究や資料の収集に関わっていた。集められた資料の中には、戦時転住所で編集発行された日本語新聞に加えて、いくつかの同人誌や文学雑誌も含まれていた。鉄柵の中で、そのような活動が根強く続けられていたことを、当時ほとんどの研究者は予知していなかった。それだけではない。調査が進むにつれ、多くの一世がまだ独身の鉱山労働者や農業労働者として、各地を「放浪」している時期でも、メモオグラフ刷りの同人誌や詩集が作られ、同好者の間で回覧されていたことが明らかになった。それは、文学が日系人研究の重要な一分野であることを示唆していた。

しかし、それらの貴重な資料を日系文学研究に役立たせるには、深刻な問題がまだ残されていた。もともと整っているとされる、UCLA図書館所蔵の日系人研究コレクションの中にも、一世が戦後編集刊行した文学雑誌の全号が揃っているものはない。したがって、日系文学研究者は、今は全米に散らばり住んでいる、一つ一つの雑誌の編集担当者や同人を捜しあて、その人たちの所持しているものに目を通さなければ、それぞれの雑誌の全容を知ることができなかった。その作業には、大変な時間と労力が必要であった。

この集成に収録されている文学雑誌の中には、編集を担当された篠田左多江・山本岩夫両氏が、これまで一〇年以上にわたって捜し出されたものが多く含まれている。これらの貴重な資料を活かす研究成果を挙げるのが、我々研究者に課せられた使命であろう。

# 日系アメリカ文学研究に貴重な資料

佐々木 敏一・立命館大学法学部講師

日本語で書かれた日系アメリカ文学は、明治四〇年代にシアトルを中心とした翁久允らによって、「移民地文芸」として始まったものである。今回戦前の雑誌『收穫』、戦時中の強制収容所で出された『若人』『怒濤』『鉄柵』『ハートマウンテン文芸』『ポストン文芸』、戦後に刊行された『NY文芸』『南加文芸』が、篠田左多江、山本岩夫という長期にわたって日系文学の研究を進められてきた両氏の解題・解説つきで復刻されることになったことは、誠に喜ばしいことである。

私が『南加文芸』をはじめて見たのは今から三〇年ほど前、故菊地謙一氏(アメリカ史の研究者、カール・米田の友人)宅であった。当時私は日本社会運動史を専門としており、カール・米田の執筆したものには興味をもったが、日系文学一般には興味がなかった。二〇年ほど前から日本人移民史を研究するようになって、日本語や英語で書かれた日系文学にも関心を持つようになった。日本語で書かれた日系アメリカ文学は、日系人が集団生活をした強制収容所の中で花を咲かせたといえる。戦後の二誌は、その伝統を維持したものである。

今回の全二二巻にわたる復刻は、日系アメリカ文学研究にも、また移民史研究にも、貴重な資料である。名前のみ知っていても見たことのなかったものを、見られる楽しみは何物にも代えられない。

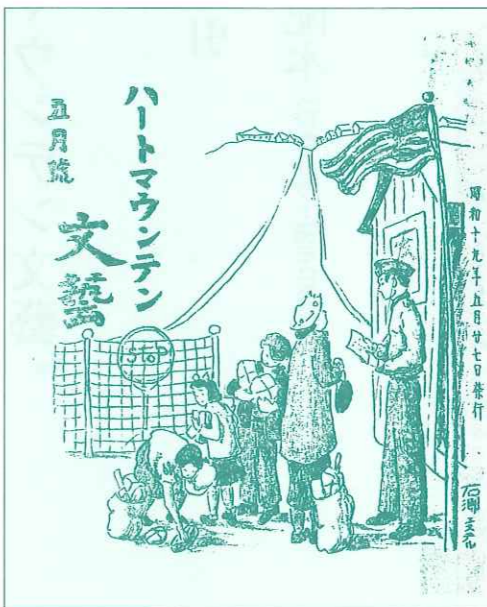
# 異国に息づく邦人の文学活動

福田 陸太郎・東京教育大学名誉教授

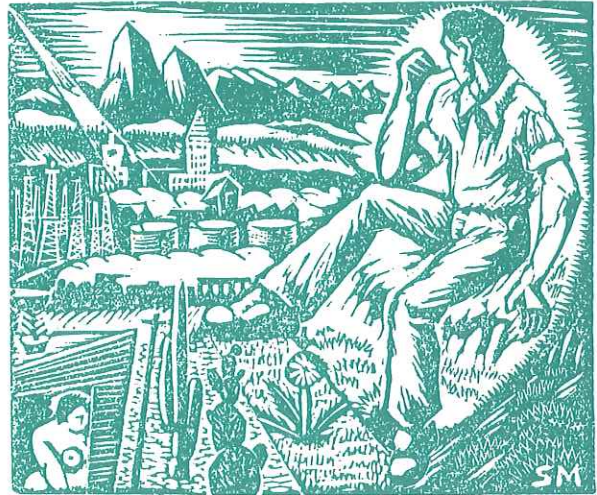
日本人が海外へ出て、異国の土地になじむには多大の困難が伴うにちがいない。特に戦時中のアメリカで、日本人なるが故に、せっかくならば築き上げた事業や財産を取り上げられて収容所へ強制移動させられたり、ひどい人種差別を受けたりした人々にとって、私たちの想像を絶する苦勞の日々が続いたことだろう。その中にもあっても、文学を愛する人たちは、文を書いたり、雑誌を作ったりして、心を燃やした。環境がきびしいだけに、それは貴重な文学活動であり、日系移民史に欠くことのできない部分を形成している。

この重要な課題を背負って、この『日系アメリカ文学雑誌集成』の編集者たちは、辺地に散在する収容所を現場に訪ね、それぞれの背景を探り、関係者と話し、更に戦後に至るまでの雑誌を手にとりて調べた。その成果を詳しい解題として添えて、このたび復刻されたこの二十数巻に及ぶ『集成』が、いかに高い価値をもつものであるかは、今更強調するまでもない。

私たちはややもすれば「コップの中の嵐」ならぬ日本国内での文学のいとなみばかりに気をとられて、より広い、違った場面での日本人の文学活動に注意することを怠って来た。戦後半世紀を経て、この問題の解明をこれ以上延引することは許されない。散佚しがちな資料を並々ならぬ努力で集め、かつ刊行にこぎつけた編集者および出版社の功績は賞讃に価するものである。もちろん、まだ未開拓の資料も残っていることだろうが、この分野の研究の基礎となるこの『集成』は、日系移民史研究に新生面を開く、一つの金字塔となるものだと思われる。







# SHUKAKU

北米詩人協會

VOL. 1 NO. 1

NOV. 1936

## 創刊の言葉

加川文一

人生の不可避を血と肉によつて生かしぬいてゆくところに文藝の意義があり、私共が文藝に全人格的に身を委ねる所以もまたそこに在ると思ひます。今度『收穫』を出すに至つた動機も私共が文藝を愛する其愛し方の上に於て理解さるべきものであつて單に文藝雑誌を出して見たいといふ物好きな氣持を満足させる爲のものではありません。私共は色々な事情でアメリカに生活してゐるものでありますが、生活が生活であり得るのはそこに人間として必ず直面しなければならぬ問題があればこそでありませう。その意味で特殊な事情と環境のうちに今かうして生活してゐる私共は、其處に異つた新しい、私共でなければ解決できない問題があつた有ることを辨へてゐるものであります。そうした問題に就て、まだそれらの解決に就て、考へ、感じ、経験したことを詩、小説、評論などの形式をかりて最高の程度にまで生かしてゆきたいのが私共の願ひであり、『收穫』はその願ひを實踐に移してゆく上の便宜を與へる機關として生れたものであります。お互ひが自分の生活のなから創り出したものによつて勵まし合ひ理解し合ひ、またそれによつて私共の社會の文化を形づくる上に何らかの寄與するところがあれば欣ばしいことだと思ひます。

私共は私共の手で『收穫』を護つてゆきたいと思ひます。それは自分の生活のよい部分をまもつてゆくことであり、今日と明日のつながりを血で示してゆく誠實な生活態度の現れであるからです。

## 詩と眞理

矢野喜代士

我々が詩の存在を肯定し尊重するのは、詩の勝れた表現の中に盛り込まれた眞理の故にはない。眞理の提示や説明には、その表現形式を應へず求めなくても、もつと容易で、而も理解の爲にも努力を要しない散文の形式があり、一歩々々と結論に導く論理的記述の方法もある。

詩の持つ表現の漠然性による内容の直観明瞭を賭してまで、我々が詩の存在價値を認めるのは、詩が詩としての藝術的逼迫力を持つてゐるからである。勝れた詩的表現の衣を被つて出て来る感傷や眞理が單なる記述や論理的嚴しさを超えて沁々と我々の魂に呼びかける力を持つてゐるからである。

科学的な眞理や論理的な結論には、万人の主観を無視して万人を首肯せしめる普遍性があるが、詩の提示する眞理は、詩人の主観を通して生れ鑑賞者の主観を通して呑み込まれるが故に、その中にある普

遍性は、何處迄も感情に基礎を置いたものである。勝れた詩に、この感情的な普遍性が可能なのは、彼が詩の素材をその根底に於て人間一般に共通な經驗から選ぶからだ。而も彼の詩が彼の個性を充分に發揮するのは、彼が「彼以外には誰も云ひ得ない、又言ふことを欲しもしない言葉を持つてゐる」(ホイットマン)からである。

斯くして、詩人の勝れた表現力によつて生々しく我々の感情に訴へられる感興や眞理は、往々にしてより正確な科學的論理的な眞理よりも大きい力を持つてゐる。

詩人はその主観を通して人生を觀、世界を凝視するが、主観によつて生れた詩の内容が個人的な自我の領域を脱してゐないか、或は廣い社會精神の漲つたものであるかは、その詩の價値を決定するものではない。例へば、我々は或詩人の思想がブルジョア的であるかプロレタリア的であるかをその詩から判断することは出来るが、その詩がブルジョア的であるかプロレタリア的であるかによつてその詩を評價

## 收穫目次

論文詩と眞理……………加川文一	白き鋪道……………加藤はるゑ(一三)
紫煙にいこふ……………塚本嶺南(三)	黒雲の如く……………田中白美(一四)
若人に寄す……………齋藤陸奥(三)	君に傳へん……………矢野君子(一五)
臥牛の秋……………外川明(四)	月……………小菅白映(一五)
P 電 車……………松田利平(四)	みぞ……………狩野輝光(一六)
四角な壁……………山平八(六)	詩 一 篇……………野崎南風(一七)
窓と話す日……………上田露草(七)	夏……………チエモリ(一八)
明日の會話……………林田盛雄(八)	陋巷の空……………トヨ・スエモト(一九)
秋雨の眞理……………唐津文夫(八)	秋……………中西眞佐夫(二〇)
曉に歌ふ……………種村青燕(九)	この指……………峯 桂 子(二一)
枯葉を焚く心臓……………井上正於(一〇)	返書……………宮崎史郎(二二)
旅情 點描……………片井溪巖子(一一)	遊さし友を記念して……………(二二)
愛と海濱小品……………中頭良之香(一二)	小品……………伊丹 明(二五)
入院する迄……………遠 艾太郎(一二)	會員名簿……………(二七)
返 事……………(二二)	えとせとら……………編輯同人(二八)
	則……………(三〇)



# カナダ移民史資料

## 全5巻

●概要——A4・A5・B6判／総2、664頁／上製本

●収録文献

- ① 『加奈陀同胞発展史』明治42年5月・大陸日報社編  
A5判・本文20頁
- ② 『加奈陀同胞発展史 第二』大正6年8月・大陸日報社編  
タフロイド判・本文22頁
- ③ 『加奈陀同胞発展史 第三』大正13年8月・大陸日報社編  
B5判・本文12頁
- ④ 『加奈陀同胞発展大鑑 附録』大正11年11月 中山訊四郎著 菊判・本文1、200頁  
第2・3巻
- ⑤ 『須知武士道』ステアウストン 漁者慈善団体 三十五年史』昭和10年11月 小林貞一著  
B6判・本文34頁  
第4巻
- ⑥ 『足跡』山崎聖翁伝記編集会編著  
B6判・本文49頁  
第5巻

(注—右記頁数の他に、口絵・広告・付録頁数が多数あります)

●原本提供——カナダU.B.C.図書館、滋賀県観光物産課、佐々木敏二

●解説——佐々木敏二(立命館大学法学部講師)

●本体価格——全5巻揃価 680,000円

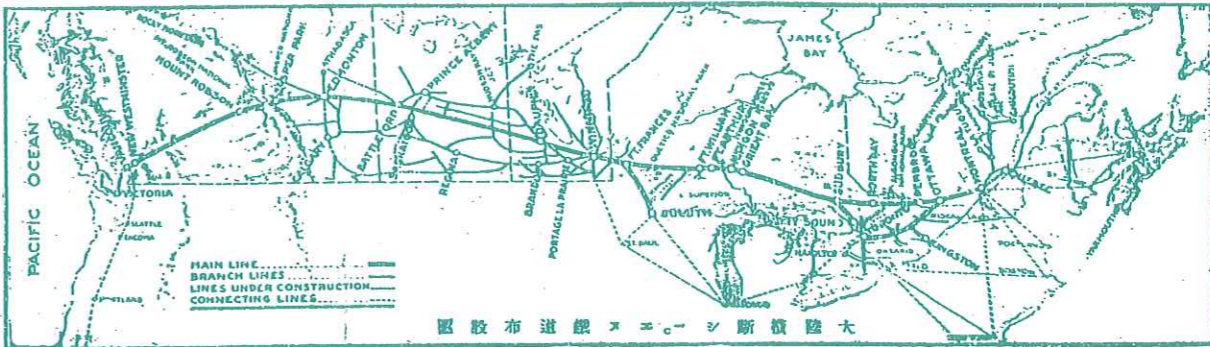
## 殖民協会報告 全13巻・別冊1

●収録原本(明治26年→明治35年)——『殖民協会報告』↓『殖民時報』

●概要——B5判・上製・総8、400頁 ●別冊——解説・総目次・索引(分売可)1,000円

●解説——兎玉正昭(鈴峰女子短期大学教授) ●揃価——本体価格260,000円(品切)

☆榎本武揚創設の殖民協会の機関誌・日本で最初の移民調査報告書の復刻(第1号→第100号)



# 日系アメリカ文学雑誌集成

## 全22巻・別冊1

●復刻版概要——A5判・B5判・上製・総11、420頁

●収録雑誌および配本

巻号	発行地	解題	配本
① 『收穫』1~6号	ロサンゼルス	全1巻(山本)	第1回配本 '97年6月 本体価72,000円
② 『若人』1~3号	ヒラ・リヴァー アリソナ	全1巻(篠田)	第1回配本 '97年6月 本体価72,000円
③ 『怒濤』1, 2, 4~7号	トゥーリレイク カリフォルニア	全2巻(篠田)	第2回配本 '97年9月 本体価54,000円
④ 『鉄柵』1~9号	トゥーリレイク カリフォルニア	全2巻(篠田)	第2回配本 '97年9月 本体価54,000円
⑤ 『ハートマウンテン文藝』1~7号	ハートマウンテン ワイオミング	全1巻(山本)	第3回配本 '97年12月 本体価90,000円
⑥ 『ポストン文藝』1~32号	ポストン アリソナ	全5巻(篠田)	第3回配本 '97年12月 本体価90,000円
⑦ 『NY文藝』1~11号	ニューヨーク	全3巻(山本)	第4回配本 '98年6月 本体価54,000円
⑧ 『南加文藝』1~35号	ロサンゼルス	全7巻(山本・篠田) +別冊	第5回配本 '98年9月 本体価126,000円

●別冊——解説「日系アメリカ文学について」・総目次・索引(分売可)1,000円

●編集・解題・解説——篠田左多江 山本 岩夫

●本体揃価格——全22巻・別冊1 396,000円

☆推薦——阪田安雄・佐々木敏二・福田陸太郎

# 不二出版

〒113 東京都文京区向丘一丁目二二  
TEL 03-3811-4433  
FAX 03-3811-4464  
振替 00160194084

本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。 ※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。